

## トップ インタビュー

### 情報戦略に対する、日本 GUIDE/SHARE の貢献 —日本 GUIDE/SHARE 幹事長に聞く—

日本 GUIDE/SHARE (JGS) は IBM 社のユーザ団体であるが、メーカーと独立した立場をとり、独自の活動を行っている。今回は、JGS 幹事長に、会員各社の情報戦略の決定のために、JGS の果たしている役割について伺いました。



話し手 中島 正司氏  
テック情報システム (株)  
代表取締役社長

—まず、JGS の活動内容について伺いたいのですが。

JGS の活動を特色付けているものは、つぎの3点だと思います。

1. リクワイアメント制度、アニュアル・サーベイなどの調査により、会員各社の IBM への要望・期待、情報システムに関する最重要関心事は何か、ということについて、IBM に的確に伝え、顧客サービス・製品計画等へ反映されることを期待しています。

2. JGS 主催の春の大会、秋

の大会により、IBM の最新情報や会員相互のユーザ事例などをいち早く紹介しています。

3. 会員各社参加のプロジェクト・チーム活動により、共同研究活動を行っています。これは、各社の若手の育成や企業間の情報交流に大いに役立っていると思います。

—プロジェクト・チームによる共同研究活動について、もう少し詳しく教えてください。

本誌今月号にとりあげられた、安部 晃生さんほか14名による「進捗管理のための新視点」も、共同研究活動の成果の一例です。現在45チーム、550名のメンバが、1年もしくは2年間の研究活動を行い、研究成果を論文としてまとめ大会で発表したり、また市販の本として出版した例もあります。

—会員各社の情報戦略に対して、JGS はどのように貢献しているのでしょうか？

もともと JGS は IBM の製品開発に対して要望をだす団体として生まれた経緯がありますが、現在は製品そのものよりも、システム・エンジニアリング、ソリューション、オフィスの生産性といったところに、会員の関心が移りつつあります。そこで JGS としても、長期的、戦略的な要望をまとめて、IBM に提



聞き手 佐藤 和夫  
情報処理学会誌編集委員

言としてぶつけていくようなことも考えています。

—最後に、御社でも情報戦略をお持ちだと思いますが、それに対する JGS の貢献ぐあいを教えてください。

私どものような情報システム会社にとっては、「お客様の要望を聞いて、提案ができる人材を育てる」ことが、最大の資産であり、命であると思っています。そこで、他社に学ぶ、他社との情報交換、あるいは共同研究を通じて人材を育成するなどを期待して、リーダ・クラスの間を積極的に参加させています。必ず成果につながると思います。

本日はどうもありがとうございました。

(平成6年12月実施)